

シグマ研究／専門委員会核データ情報／評価専門部会
弾性散乱，非弾性散乱W.G.会合議事録

日 時 昭和44年9月26日(金)
場 所 日本IBM第1会議室
出席者 村田，松延，金森，鹿取，中村，山越，五十嵐

I 作業の分担

初めに予定した核種は

Pu-240, Pu-239, U-238, U-235, Fe, Ni, Cr, Na, O-16, C,
Beであったが，man-powerの点からC, Beを除くことにした。作業の分担は以
下のように決った。

☒ Pu-240, Pu-239	松 延,
U-238, U-235	村 田,
Fe	山 越,
Ni	金 森,
Cr	鹿 取,
Na, O-16	神 田,
level density	} 中 村, 五十嵐,
level scheme	
optical parameter	
計 算	

II 作業の進め方

数値データはSCISRSを活用する。

SCISRSにないデータはCINDA等で調べた文献からひろう。調べた文献はシー
トに記入する。

データの整理 : 文献から取ったデータはパンチカードにして保存する。グラフか

ら読み取ったデータはデータ・シートとは別のシートに記入し、グラフは複写してデータシートにつける。

データがSCISRSに入っているものはこれをプロットする。

文献を調べて実験の質を判断する。

energy 範囲は 1 KeV ~ 20MeV とする。

この段階の作業は 1 2 月一杯を期限とする。

II output の形

最終的な output は以下のものを考える。

- i) diff. cross section の Legendre 展開係数
- ii) excitation function 及び energy spectrum.
- iii) T_e^J
- iv) level density parameter, level scheme.